

地域包括ケアに関する取組み

博多区

令和6年3月末現在

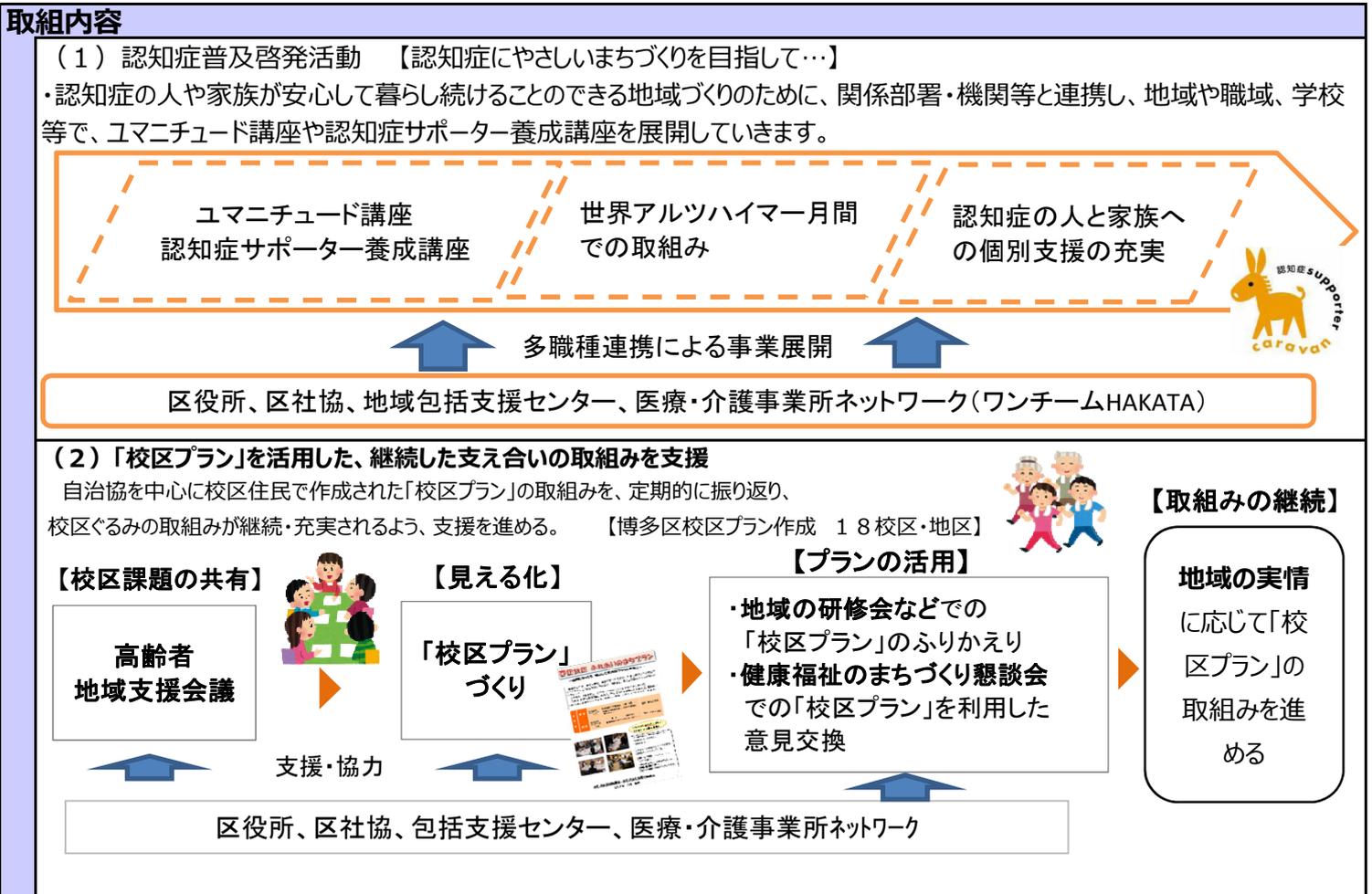
○概況

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】 博多区は、JR博多駅、博多港、福岡空港を抱える陸・海・空の玄関口であるとともに、国道3号が区内を縦断する交通の中枢となっている。 博多駅を中心とする北部の都市部と、都市周辺、南部の郊外住宅地に大別される。生活の便が良い地域が多いが、空港の東側の丘陵地など比較的不便な地域もある。 【高齢者の状況（高齢化率等）】 高齢化率は市内で最も低いが、区内の地域間での差は大きい。高齢者の世帯状況は、高齢者がいる世帯のうち、43%が単身世帯(R2国勢調査)であり、市内で2番目に高い。 また、特に博多駅周辺はオートロックマンションが多く、見守りや地域へのつなぎ支援が難しい。 【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】 社会資源・地域コミュニティともに地域の差は大きい。特に都心部は、住民の関係性が希薄化しており、地域での見守りや支援体制がとりにくい状況にある。同職種の専門職同士のつながり強化についても、単年毎にリーダー交替があり、「切れ目のない」体制づくりが難しい。 医療と介護の事業所が連携し、地域貢献活動を行う事業所ネットワーク（令和6年3月末・6団体）と、ネットワーク間での情報交換や支え合いを目的とした事業所ネットワークの連合体「ワンチームHAKATA」が結成されている。今後も、地域の特性に応じて、新規事業所ネットワークの立ち上げ支援や各ネットワークが地域課題やニーズを把握し、地域とつながることを目的に活動していく。	人口（人）	231,573
	高齢者数（人）	43,303
	高齢化率（%）	18.7
	小学校区数 （自治協議会数）	18 (22)
	いきいきセンター 圏域数	8

○地域包括ケアに関する現状と課題

- 博多区では単身高齢者が多く、支援が必要な高齢者の把握に努めるとともに、支援者の抱え込みや負担感の軽減を図る必要がある。
- 元気づちから高齢者本人の意思決定支援と、対応力向上のために専門職や地域の各種団体同士のつながり強化が必要である。
- 地域役員の高齢化や担い手不足など、個々の高齢者を支える力が弱まる中、予防的対応と介護の備えが重要である。
- 複合課題を抱える高齢者への支援の一助として、権利擁護に関する事業の体制強化と推進が必要である。

1. 令和6年度取組みの中で、特徴あるもの



2. 令和5年度の取組み状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

【検討内容】 金銭管理ができなくなった認知症の方への支援、安否確認が必要だが介入困難な方、家族へも支援が必要な方、精神症状が強い方への支援、等 【参加者】 医療・介護の専門職、民生委員児童委員、町内会長、マンション管理組合、等

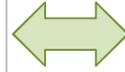
個別支援会議開催状況・会議回数：70回（うち、介護予防型個別支援会議16件）

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

■「校区プラン」活用による地域保健福祉活動の推進

- 地域の研修会などでの「校区プラン」のふりかえり
- 見守りマップ更新に合わせて実施
- ふれあいネットワーク研修会で実施
- 防災ワークショップの中で実施 など

- 健康福祉のまちづくり懇談会での「校区プラン」を利用した意見交換
- 校区の保健衛生概況
- 校区の事業報告・計画
- 校区プラン・地域包括ケアの取組み



■ 地域の支えあい活動の充実

- よかトレ実践ステーション登録 138か所
- ふれあいサロン開設：58か所
- 見守りマップの作成・更新 18校区地区で作成

高齢者地域支援会議開催状況
 開催校区：博多区全23校区（地区）で実施、延べ41回
 【内訳】「校区プラン」ふりかえり等：6校区（地区）、延べ9回
 ・「健康福祉のまちづくり懇談会」：22校区（地区）、延べ22回
 ・地域包括支援センター主催：9校区（地区） 延べ10回
 高齢者の見守り支援、ACPへの取組み、関係機関との交流会

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

(1) オーラルフレイル予防の支援充実

- ・ 区の取組みについて区歯科医師会会員へ周知し、オーラルフレイル予防に関する協力の呼びかけを実施。
 - ・ 区歯科医師会・県歯科衛生士会・区保健福祉センター連名で作成したパンフレットなどを活用し、全校区でオーラルフレイル予防普及啓発に関する講話を実施。
- 49回延べ835人。

(2) 多職種連携研修会・連携会議

- 【研修テーマ】
- ① 在宅から始めるACP
- ② 在宅医療における看取りの実際
- ③ 急性期病院における退院支援
- 【医師・薬剤師・歯科医師・コメディカルによるグループワーク】
- ・ 独居の人に対する多職種連携

(3) 事業所ネットワークの立ち上げ支援

- ・ 8圏域中、2圏域でネットワークの立ち上げに向けて活動中。
- 【活動内容】
- ・ 事業所同士の顔の見える関係づくり
- ・ 認知症サポーター養成講座の展開による地域貢献活動

圏域連携会議開催状況
 ・ 会議回数：6回 ・ テーマ：多世代に向けた認知症啓発活動の展開、事業所ネットワーク立ち上げ支援と顔の見える連携づくり、事例検討、他

④ 区レベルの取組み（特徴ある取組み）

区地域包括ケア推進プロジェクト会議（継続）2回/年

多部門の課長・係長による会議を開催。関係各課の取組みを共有し、意見交換を行うことで、区内の連携を深めている。
 内容：地域における防災の取組み、専門学校との共働による認知症サポーター養成講座、インクルーシブ訓練の紹介、地域包括ケアの推進 等
 【プロジェクトメンバー：地域保健福祉課、健康課、福祉・介護保険課、総務課、企画振興課、地域支援課、生涯学習推進課】

区地域包括ケア推進会議開催状況
 区地域包括ケア推進会議：1回
 部会：在宅医療・介護部会及び権利擁護部会合同開催：1回 / 生活支援・介護予防部会：1回
 検討結果：在宅医療推進のための多職種連携の強化。健康寿命延伸を目標としたオーラルフレイル予防、ロコモフレイル予防の取組み。地域住民と事業所ネットワーク・職能団体が気軽につながり合える仕組みづくり。

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組み	具体的内容
職能団体による主な活動 ① ケアマネット博多（介護支援専門員連絡会） ② 博多区訪問看護ステーション会 ③ 博多区医療ソーシャルワーカー連絡会	① 役員会、総会、定例会を開催。 研修会「ケアマネジャーのリスクマネジメント」「在宅医療とのさらなる連携にむけて」 ② 定例会、交流会を開催。研修会「高齢者の排泄ケア」 ③ 交流会、情報交換会を開催。
地域包括ケアシステムフォーラム	「終活ってなあに？」をテーマに、3名の講師による市民向けフォーラムを開催。
・各圏域毎の事業所ネットワーク定例会 ・ワンチームHAKATA世話人会	各事業所ネットワークが、定例会を開催し、活動状況の共有や今後の事業展開を協議する。 ワンチームHAKATAの世話人が各ネットワークへの情報共有や後方支援を行った。
障がい者支援機関とのネットワークづくり	年2回開催 （障がい者基幹相談支援センター、地域包括支援センター、障がいサービス事業所など）
校区情報交換会	2回開催。地域支援課、校区担当保健師、地域包括支援センター、社会福祉協議会が、校区（地区）の実情や住民ニーズに沿った、より良い支援を行うための意見交換会を実施。